

# 適正規模・適正配置

# 学校の適正規模・適正配置の基準

## 学校の適正規模

- 法令上、学校規模の基準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「**12学級以上18学級以下**」が基準とされている。
- 文部科学省が示した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（以下、「手引」という。）においては、学校規模の基準を下回る場合の対応の目安が次のとおり示されている。

	ア	イ	ウ	エ	オ
小学校	1～5学級	6学級	7～8学級	9～11学級	—
中学校	1～2学級	3学級	4～5学級	6～8学級	9～11学級

ア、イ…学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討（複式学級有り）  
 ウ…学校統合の適否も含め今後の教育環境のあり方を検討（一部クラス替え可）  
 エ、オ…児童生徒数の予測等を加味して今後の教育環境のあり方を検討

### 小牧市の学級数（R15年推計）

学校名	小牧小	村中小	小牧南小	三ツ瀨小	味岡小	篠岡小	北里小	米野小	一色小	小木小	小牧原小	本庄小	桃ヶ丘小	陶小	光ヶ丘小	大城小
学級数	24	12	23	6	24	6	12	24	15	7	18	12	6	6	6	6
対応の目安	—	—	—	イ	—	イ	—	—	—	ウ	—	—	イ	イ	イ	イ

学校名	小牧中	味岡中	篠岡中	北里中	応時中	岩崎中	桃陵中	小牧西中	光ヶ丘中
学級数	18	15	3	10	17	12	6	6	6
対応の目安	—	—	イ	オ	—	—	エ	エ	エ

- 文部科学省では、25学級以上の学校を大規模校、31学級以上の学校を過大規模校としている。
- 手引においては、大規模校には次のような課題が生じる可能性があるとして示されている。
  - ・ 集団生活においても同学年の結び付きが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
  - ・ 教員集団として、児童生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細かな指導を行うことが困難である 等

## 学校の適正配置

- 法令上、「**小学校でおおむね4 km以内、中学校ではおおむね6 km以内**」という基準を定めている。
- 手引においては、通学時間を**1時間以内**を一応の目安と提示  
 （適切な交通手段を確保し、遠距離通学のデメリットを一定程度解消する前提）

# 小牧市における適正規模・適正配置の考え方

## 適正規模の基本的な考え方

- 法令上の規定を参考に、小牧市における適正規模の基本的な考えを次のとおりとする。

### ①小学校

1校あたり **12学級から24学級**（1学年あたり2学級から4学級）

### ②中学校

1校あたり **12学級から24学級**（1学年あたり4学級から8学級）

- 適正規模の条件を満たさない学校については、小規模校・大規模校の課題の解消に努める必要があるが、地域の事情に応じて、弾力的な運用が必要である。

## 適正配置の基本的な考え方

- 法令上の規定及び手引に示されている基準と同様に、小牧市における適正配置の基本的な考えを次のとおりとする。

### ①小学校

＜通学距離の許容範囲＞

おおむね **4 km程度**を目安

＜通学時間の許容範囲＞

おおむね **1時間以内**を目安

### ②中学校

＜通学距離の許容範囲＞

おおむね **6 km程度**を目安

＜通学時間の許容範囲＞

おおむね **1時間以内**を目安

＜小牧市の通学距離（R5年度）＞

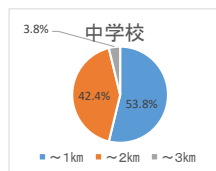
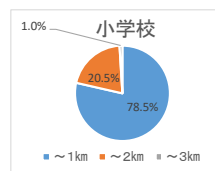
小学校

自宅からの通学距離	
～1 km	6,049人
～2 km	1,579人
～3 km	74人
3 km以上	0人

中学校

自宅からの通学距離	
～1 km	2,216人
～2 km	1,750人
～3 km	157人
3 km以上	0人

※一部の児童生徒は集合場所からの距離



- ただし、徒歩での通学距離が**2kmを超えて**通学する児童生徒については、通学時間がおおむね1時間以内を目安として通学できるよう、公共交通機関の活用やスクールバスの導入等の検討が必要である。

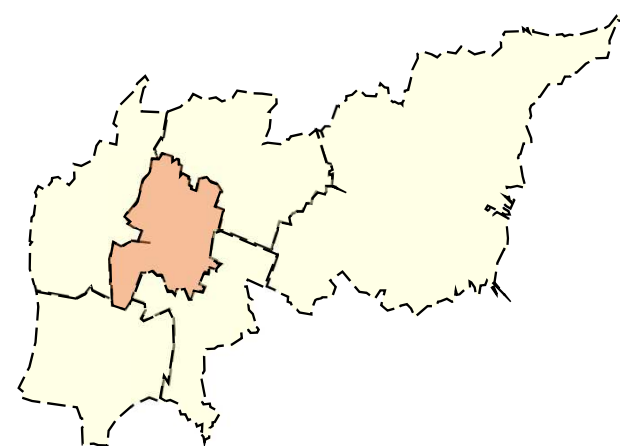
- また、児童生徒が安全に通学できるよう、安全な通学路の設定や地域との連携による見守り活動等、安全対策が重要である。

# 地区ごとの課題①

## 小牧地区（小牧小学校、小牧原小学校、小牧中学校）

### <児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、地区の過半が市街化地域であり、人口密度が高いエリアが広がる。
- 他地区と比較し児童生徒数が多く、令和40年度まで**小学校はいずれも全学年3学級以上、中学校は全学年6学級以上**となる見込みである。
- 今後、児童生徒数の減少は見込まれるが、その推移は緩やかであり、上記のとおり**当面の間は適正規模を確保**できるため、早急な対応は必要ないと考えられる。



#### クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	3	4	4	4	23	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
小牧原小	3	4	3	4	4	3	21	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	3	4	4	4	4	4	23
小牧原小	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18

#### クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧中	7	7	7	21	7	6	7	20	6	6	6	18	7	6	6	19

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧中	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19

### <学校施設の老朽化からみる課題>

- 小牧原小学校は築年数48年を経過している。小牧市の小中学校は昭和40年代から50年代に建設した建物が多く、同時期に修繕・建替え時期を迎えるため、これらの負担を一時期に集中させないために、無理のない建替え計画を策定し、計画的に実施していく必要がある。

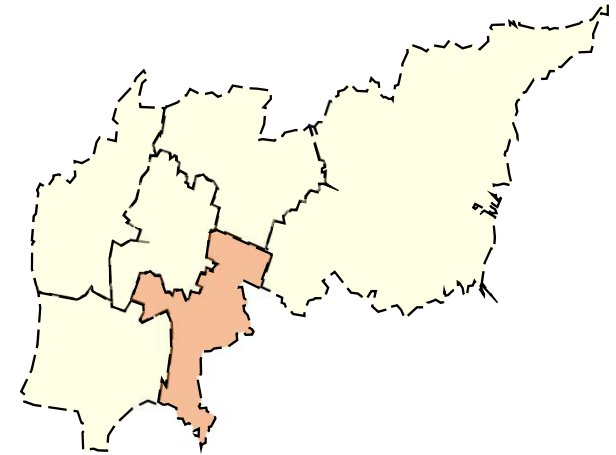
施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
小牧小学校	平成 23	2011	12
小牧原小学校	昭和 50	1975	48
小牧中学校	平成 9	1997	26

# 地区ごとの課題②

## 小牧南地区（小牧南小学校、米野小学校、応時中学校）

### <児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、地区の過半が市街化地域であり、人口密度が高いエリアが広がる。
- 他地区と比較し児童生徒数が多く、令和40年度まで**小学校はいずれも全学年3学級以上、中学校は全学年5学級以上**となる見込みである。
- 今後、児童生徒数の減少は見込まれるが、その推移は緩やかであり、上記のとおり**当面の間は適正規模を確保**できるため、早急な対応は必要ないと考えられる。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度							
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	
小牧南小	4	4	5	5	4	4	26	3	3	4	4	4	4	22	4	4	4	4	4	4	3	23	4	4	4	4	4	4	24
米野小	3	4	5	4	4	4	24	4	3	3	4	4	3	21	4	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度							
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	
小牧南小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
米野小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	4	24	3	3	4	4	4	4	22

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
応時中	7	7	6	20	7	7	7	21	5	6	6	17	7	6	6	19

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
応時中	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19

### <学校施設の老朽化からみる課題>

- 米野小学校は築年数54年を経過しているが、令和7年度から令和9年度にかけて建替え工事を予定している。
- 応時中学校は築年数50年を経過している。小牧市の小中学校は昭和40年代から50年代に建設した建物が多く、同時期に修繕・建替え時期を迎えるため、これらの負担を一時期に集中させないために、無理のない建替え計画を策定し、計画的に実施していく必要がある。

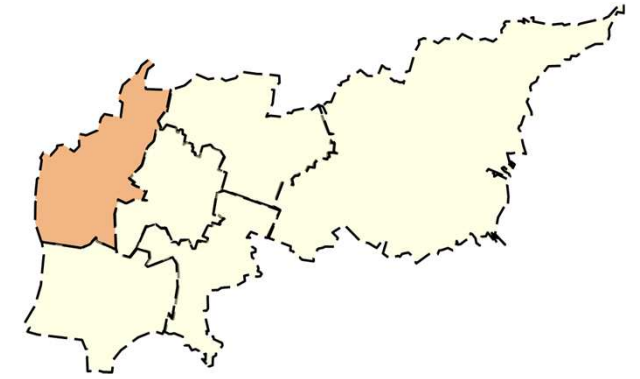
施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
小牧南小学校	令和3	2021	2
米野小学校	昭和44	1969	54
応時中学校	昭和48	1973	50

# 地区ごとの課題③

## 巾下地区（村中小学校、三ツ瀨小学校、小牧西中学校）

### <児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、地区内に市街化調整区域が多く人口密度が低い。
- 児童生徒数が少ない地区であり、小学校はいずれも全学年が1学級又は2学級、中学校は全学年が3学級以下である。
- 特に、三ツ瀨小学校は令和14年度に**全学年1学級**に、小牧西中学校は令和12年度に**全学年が2学級**となる見込みである。両校とも小牧市の適正標準を大きく下回るため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を速やかに検討・実施する等の対応が必要である。
- 村中小学校においては、小牧市の適正標準を満たしているため、早急な対応が必要であるわけではないが、今後、**児童生徒数の動向を注視**していく必要がある。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
村中小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
三ツ瀨小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	2	2	2	1	9	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	2	7

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
村中小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
三ツ瀨小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧西中	3	2	3	8	2	3	2	7	2	2	2	6	2	2	2	6

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧西中	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6

### <学校施設の老朽化からみる課題>

- 全ての小中学校が築年数40年以上を経過している。
- 特に三ツ瀨小学校は築年数62年を経過しているため、学校施設整備を早急に検討・実施していく必要がある。

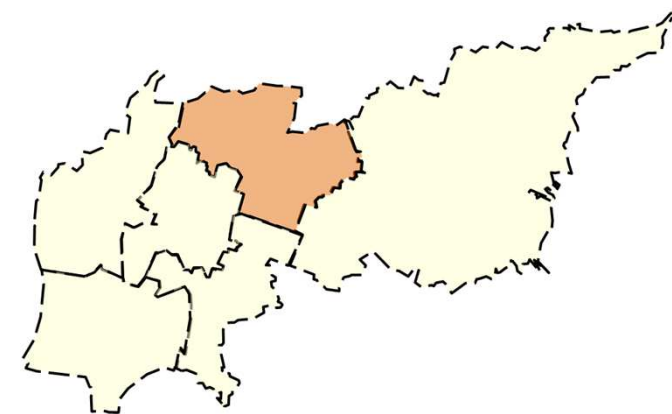
施設名	地区	建築年度		築年数
		和暦	西暦	
三ツ瀨小学校	巾下地区	昭和 36	1961	62
村中小学校	巾下地区	昭和 39	1964	59
小牧西中学校	巾下地区	昭和 57	1982	41

# 地区ごとの課題④

## 味岡地区（味岡小学校、一色小学校、本庄小学校、味岡中学校、岩崎中学校）

### <児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、市街化区域が過半を占めており、味岡駅を中心に人口密度が高いエリアが広がる。
- 児童生徒数が多い地区であり、令和15年度まで、全ての小中学校において小牧市の適正標準を満たす見込みである。
- ただし、**岩崎中学校**においては、令和16年度以降は**小牧市の適正標準を下回る見込み**であるため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を検討・実施する等の対応が必要である。
- また、**一色小学校**及び**本庄小学校**においては、小牧市の適正標準を満たしているため、早急な対応が必要になるわけではないが、今後、全学年2学級になる見込みであるため、**児童生徒数の動向を注視**していく必要がある。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
味岡小	5	4	5	5	5	4	28	4	4	4	4	4	5	25	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
一色小	3	3	3	3	3	3	18	3	2	2	3	3	3	16	3	3	2	2	2	3	15	3	3	3	3	3	3	18
本庄小	3	3	3	3	3	3	18	2	2	3	3	3	3	16	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
味岡小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	3	4	4	4	4	4	23	3	3	3	3	3	3	18
一色小	3	3	3	3	3	3	18	2	2	2	2	2	3	13	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
本庄小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
味岡中	7	6	6	19	6	6	6	18	5	5	5	15	5	4	4	13
岩崎中	5	4	4	13	5	5	4	14	4	4	4	12	4	3	3	10

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
味岡中	5	4	4	13	5	4	4	13	5	4	4	13	5	4	4	13
岩崎中	4	3	4	11	4	3	3	10	4	3	3	10	4	3	3	10

### <学校施設の老朽化からみる課題>

- 味岡小学校、一色小学校、本庄小学校及び岩崎中学校は、築年数40年以上を経過している。
- いずれも昭和40年代から50年代に建設した建物であり、同時期に修繕・建替え時期を迎えるため、これらの負担を一時期に集中させないために、無理のない建替え計画等を策定し、計画的に実施していく必要がある。

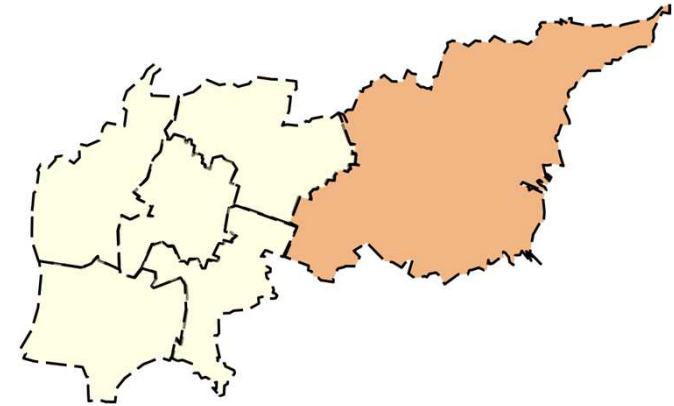
施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
味岡小学校	昭和 41	1966	57
一色小学校	昭和 44	1969	54
本庄小学校	昭和 50	1975	48
味岡中学校	平成 26	2014	9
岩崎中学校	昭和 52	1977	46

# 地区ごとの課題⑤

## 篠岡地区（篠岡小学校、桃ヶ丘小学校、陶小学校、光ヶ丘小学校、大城小学校、篠岡中学校、桃陵中学校、光ヶ丘中学校）

### <児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、桃花台ニュータウンは人口密度が高いが、他のエリアは市街化調整区域で人口密度が低い。
- 近年は人口減少が顕著であり、これは桃花台ニュータウンで育った子どもたちが成人期に達する頃から多く流出するためだと考えられ、今後も減少が見込まれる。
- 令和9年度には、**全ての小中学校において小牧市の適正標準を下回り**、令和14年度に**全ての小学校が全学年1学級**に、令和13年度に**篠岡中学校が全学年1学級**になる見込みである。
- 全ての小中学校が小牧市の適正標準を大きく下回る見込みであるため、速やかに**学校統合等により適正規模に近づけること**の適否を検討する必要がある。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
篠岡小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
桃ヶ丘小	2	2	2	2	3	2	13	1	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
陶小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
光ヶ丘小	2	2	2	2	2	2	12	1	1	2	2	2	10	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	
大城小	1	2	2	2	1	2	10	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
篠岡小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
桃ヶ丘小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
陶小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
光ヶ丘小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
大城小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
篠岡中	2	2	2	6	2	2	2	6	1	1	1	3	1	1	1	3
桃陵中	5	4	4	13	4	3	3	10	2	2	2	6	2	2	2	6
光ヶ丘中	2	3	3	8	2	2	3	7	2	2	2	6	2	1	1	4

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
篠岡中	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
桃陵中	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6
光ヶ丘中	2	2	2	6	2	2	2	6	2	1	1	4	2	1	1	4

### <学校施設の老朽化からみる課題>

- 篠岡小学校、桃ヶ丘小学校、篠岡中学校及び桃陵中学校は、築年数40年以上を経過している。
- 特に**篠岡小学校は築年数65年を経過**しており、これは小牧市内の小中学校で最も築年数を経過しているため、学校施設整備を早急に検討・実施していく必要がある。

施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
篠岡小学校	昭和 33	1958	65
桃ヶ丘小学校	昭和 50	1975	48
陶小学校	昭和 59	1984	39
光ヶ丘小学校	昭和 62	1987	36
大城小学校	平成元	1989	34
篠岡中学校	昭和 40	1965	58
桃陵中学校	昭和 56	1981	42
光ヶ丘中学校	平成元	1989	34

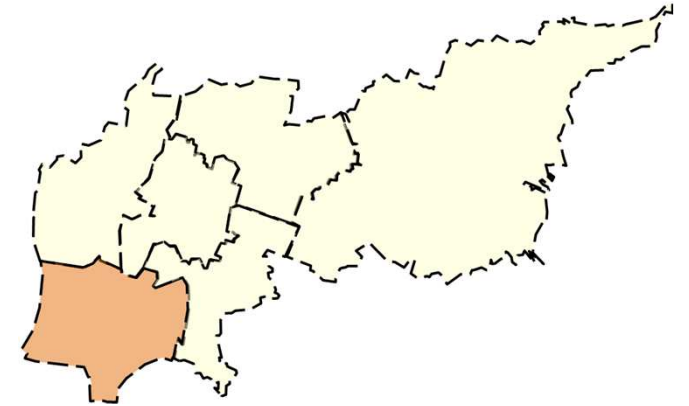


# 地区ごとの課題⑥

## 北里地区（北里小学校、小木小学校、北里中学校）

### <児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、地区の過半が市街化調整区域で人口密度が低い。
- 児童生徒数が少ない地区であり、令和15年度には、小学校はいずれも全学年が1学級又は2学級になる見込みである。
- **小木小学校**は令和11年度に、**北里中学校**は令和14年度に、**小牧市の適正標準を下回る**見込みである。
- 特に、**小木小学校**は令和16年度に**全学年1学級**になる見込みであるため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を速やかに検討・実施する等の対応が必要である。
- **北里小学校**は、小牧市の適正標準を満たしているため、早急な対応が必要であるわけではないが、今後、全学年2学級になる見込みであるため、**児童生徒数の動向を注視**していく必要がある。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
北里小	2	2	3	3	2	3	15	2	3	2	3	3	2	15	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
小木小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	1	1	1	1	1	1	7	1	1	1	1	1	1	6

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
北里小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
小木小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
北里中	5	4	4	13	4	4	4	12	4	3	3	10	3	3	3	9

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
北里中	3	3	3	9	3	3	3	9	3	3	3	9	3	3	3	9

### <学校施設の老朽化からみる課題>

- 全ての小中学校が築年数40年以上を経過している。
- 特に**北里小学校及び北里中学校**は**築年数が60年以上**を経過しているため、学校施設整備を早急に検討・実施していく必要がある。

施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
北里小学校	昭和 37	1962	61
小木小学校	昭和 49	1974	49
北里中学校	昭和 38	1963	60

# 課題解消のための取り組み方針

## 基本的な考え方

- 小規模校については、各地域の実情に応じながら、通学区域の変更や学校の再編により、適正規模の確保に努めるようにします。原則として、児童生徒数の少ない学校から、校舎の老朽化等を踏まえつつ、検討を進めます。
- 特に、将来推計で学級数が6学級以下となる学校が立地する、巾下地区、篠岡地区、北里地区について、早急に取り組みます。
- 大規模校については、今後児童生徒数が減少し、適正規模になる見込みであることから、その推移を見守ることとし、児童生徒数が増加した場合には、各学校の状況に応じて、施設整備や通学区域の変更などを検討します。
- 学校の再編では、対象となる学校及び地域と十分な調整を図り、地域の方々の理解と協力を得ながら、取り組んでいきます。

## 具体的な進め方

- 巾下地区、篠岡地区、北里地区について、学校の再編にかかる協議を早期に開始します。
- 学校の再編の協議にあたっては、当該地区の地域の方々（区・自治会）、地域協議会関係者、学校関係者、保護者、小中学生など、地域住民で構成される組織（（仮称）〇〇地区の学校を考える会）を設置し、合意形成を図ります。
- 通学に関しては、保護者や子どもたちのアンケートにおいても、通学の安全性や通学にかかる時間が心配されています。子どもたちの安全面や負担面を考慮し、必要に応じて、自転車による通学や公共交通機関の利用、通学バスの導入等を検討します。
- 老朽化した校舎の建て替えを検討する際には、必要に応じて学校再編を検討します。
- 学校再編により使用しなくなった学校施設の利活用についても、最適な方法を多面的に検討します。

## 特に配慮すること

- 地域住民との合意形成では、教育委員会と地域住民がそれぞれの立場から「子どもたちにとってより望ましい教育環境を目指す」という視点で協議をし、進めていきます。
- 検討内容については、市のホームページや広報などを通して、保護者や市民のみなさんへの情報提供に努めます。